

TaKaRa

For the *Sake* of the Next

アニュアルレポート 2012



宝ホールディングス株式会社

宝

たから：玉や土器や財貨などを屋根の下に入れて大切に保存する意

実り豊かな大地、ふりそそぐ太陽、恵みの雨—古来より日本人は、自然が育む田の恵みを、かけがえのない宝物として尊んできました。TaKaRaグループの社名「寶」の語源は、「田から」収穫された穀物に由来するとされ*、農耕を生活の糧としてきた日本人の価値観と強く結び付いています。

TaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じ、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求してきました。今後も新たな価値を創出し、創業以来続く、自然を尊ぶ精神に根ざした製品およびサービスを提供し、社会に貢献してまいります。

*富山房「大言海」大槻文彦著

企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと
生き生きとした社会づくりに貢献します。

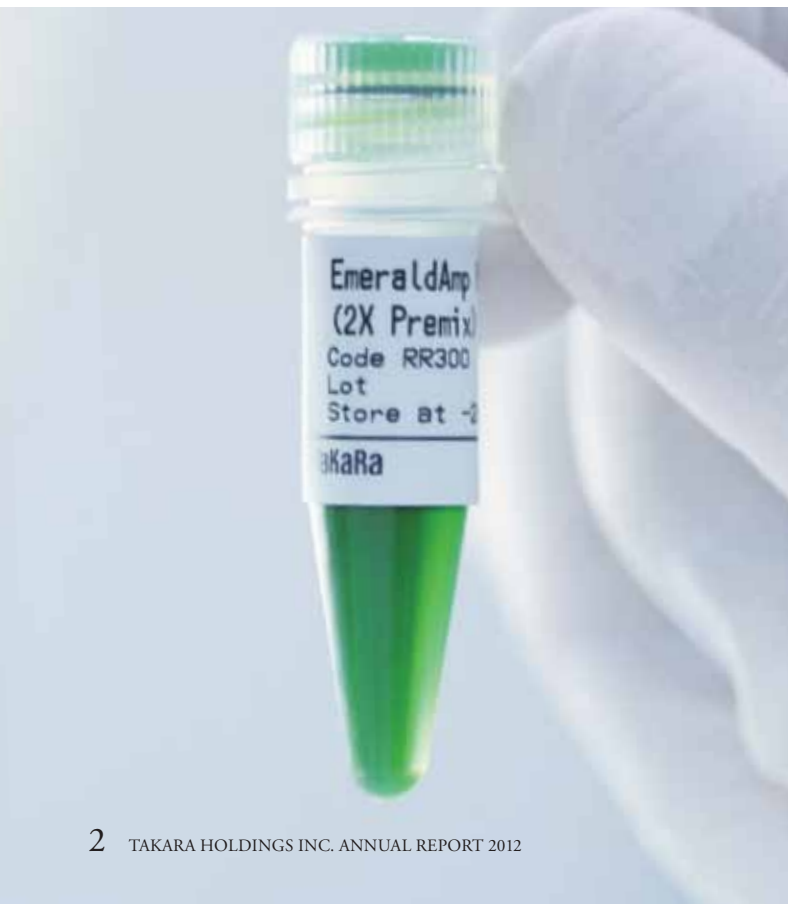
TaKaRa グループの歩み

1842年	創業
1897年	「寶」印の商標を登録
1925年	寶酒造株式会社 (宝ホールディングス株式会社の前身) 創立
1949年	株式を上場
1979年	国産初の制限酵素を発売 (バイオ事業を開始)
1982年	米国で清酒の現地製造を開始
1993年	長期経営構想「TI-21」スタート
2000年	長期経営構想「TE-100」スタート
2002年	持株会社体制へ移行 宝ホールディングス株式会社 設立
2004年	タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場
2006年	グループ内の事業を再編し宝ヘルスケア株式会社を設立
2011年	長期経営ビジョン「TaKaRa グループ・ビジョン2020」スタート 「TaKaRa グループ中期経営計画2013」スタート

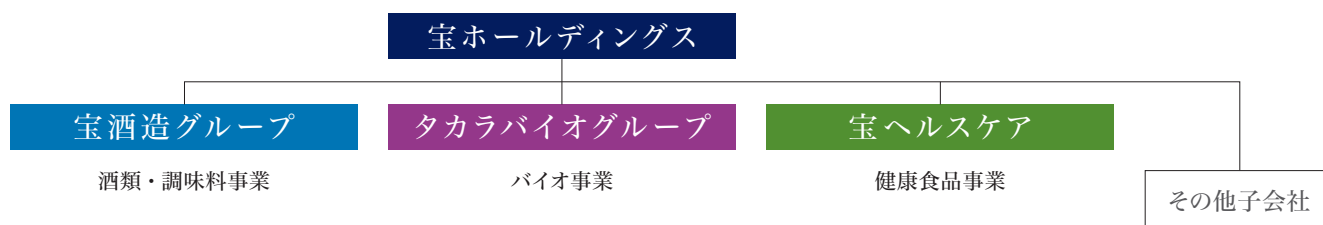


宝ホールディングスは、酒類・調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループ、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下に置く純粋持株会社として、グループ全社の経営を調整・統括し、最大限の事業成果を追求しています。

この持株会社体制のもと、TaKaRaグループは、酒類・調味料事業を安定的な収益基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する、独自の強固な事業ポートフォリオを築いています。



事業構造



事業内容

宝酒造グループ



宝酒造グループは、創業以来続く酒類・調味料事業を展開するTaKaRaグループの中核事業です。170年の長きにわたり、確かな技術に裏付けられた安心できる商品を提供してきました。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど多岐にわたり、日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルに展開しています。

[> 詳細は28ページへ](#)

タカラバイオグループ



タカラバイオグループでは、遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて、人々の健康に貢献していきたいと考えています。技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第2の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

[> 詳細は29ページへ](#)

宝ヘルスケア



宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品の販売を通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。タカラバイオが開発した素材で製品開発を行い、マーケティング活動や通信販売を中心とする販売活動を行っています。この一連の取り組みを通じてTaKaRaグループのシナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させています。

[> 詳細は29ページへ](#)

目次

6	TaKaRaグループ中期経営計画2013
10	業績ハイライト
12	株主・投資家の皆様へ
19	社長就任のご挨拶
20	CSR
22	コーポレート・ガバナンス
26	役員
28	事業概要
30	連結財務ハイライト
32	主要子会社データ
33	投資家情報

将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

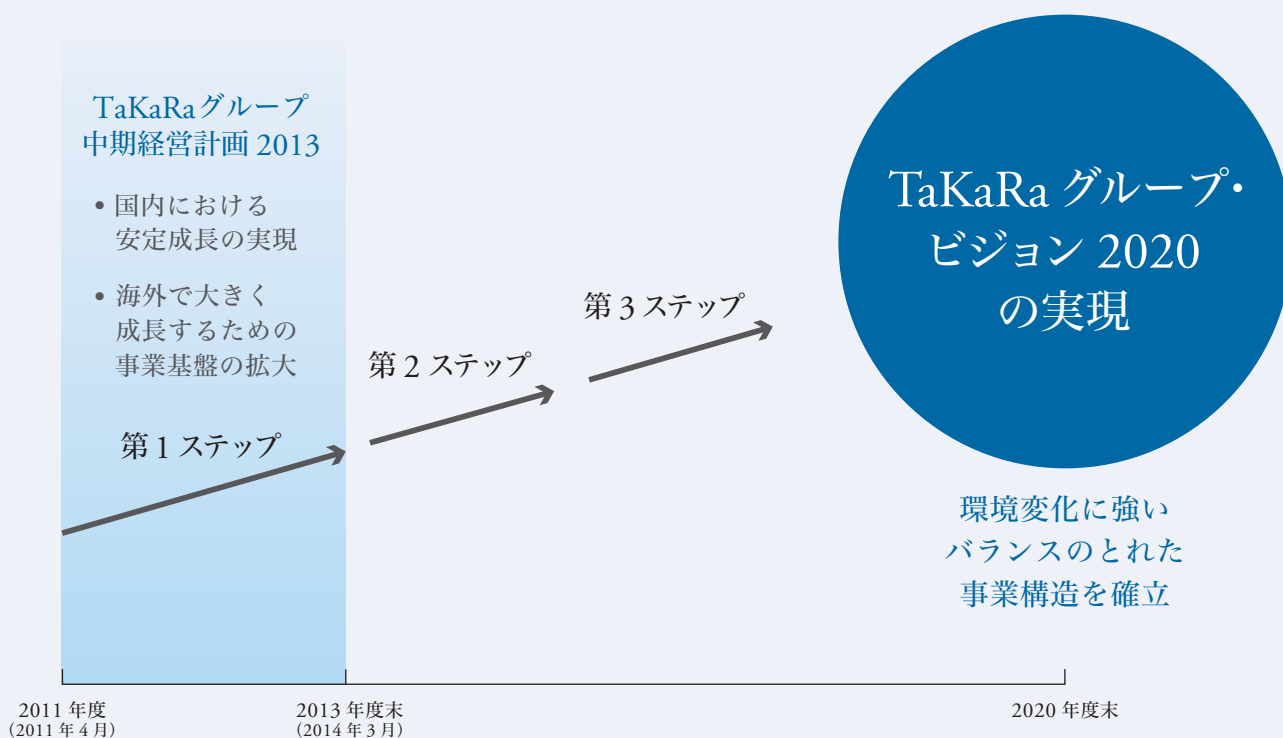
長期経営ビジョン—TaKaRaグループ・ビジョン2020

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、
環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

TaKaRaグループは、長期的な企業価値の向上を目指し、長期経営構想とその実行計画である中期経営計画に基づくグループ経営を進め、着実に事業基盤を拡大してきました。

2011年4月からは、新たな長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」と、その実行計画の第1ステップである「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、長期戦略に基づくグループ経営で、持続的成長を目指しています。

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」達成へのロードマップ



TaKaRaグループ中期経営計画2013

2020年までの長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」では、国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを経営目標に掲げています。この目標の実現に向けた第1ステップとして策定した「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、『国内における安定成長の実現』と『海外で大きく成長するための事業基盤の拡大』を目指しています。

基本方針

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。

事業の位置付けと事業方針

基盤事業

国内酒類事業

中核事業として収益力の強化に取り組み、グループの成長を支える。

成長事業

海外酒類事業、日本食材卸事業

調味料・酒精事業

遺伝子工学研究事業

成長が見込まれる市場で、積極的に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する。

育成事業

健康食品事業

遺伝子医療事業

成長が見込まれる市場で、次期の成長事業化を目指し、事業基盤の確立に取り組む。

風土・人財の育成

グループ経営基盤の強化

社会・環境行動の推進

財務方針

健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

最終年度（2014年3月期）の定量目標

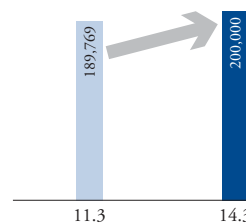
売上・利益水準の向上

連結売上高 **2,000億円以上**

連結営業利益 **100億円以上**

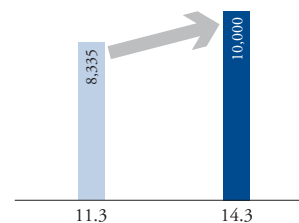
連結売上高

5.4%増



連結営業利益

20.0%増



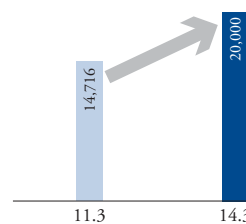
海外で大きく成長するための事業基盤の拡大

海外売上高 **200億円以上**

海外売上高比率 **10%以上**

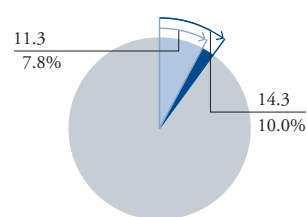
海外売上高

35.9%増



海外売上高比率

+2.2%



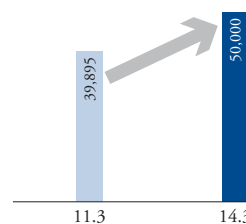
成長事業の拡大と育成事業の基盤確立

成長事業および育成事業の売上高 **500億円以上**

成長事業および育成事業の売上高比率 **25%以上**

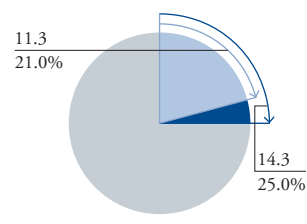
成長事業および育成事業の売上高

25.3%増



成長事業および育成事業の売上高比率

+4.0%



事業別の取り組み

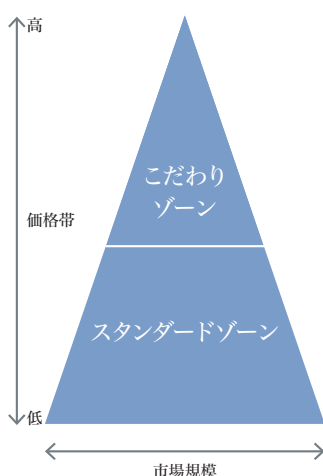
基盤事業

国内酒類事業

宝酒造グループ

事業方針 安定的なキャッシュ・フローを生み出し、グループの成長を支える。

- 事業戦略**
- 新商品の開発：差別化品質を持ったオリジナリティーある新商品の開発
 - ブランドの育成：こだわりゾーンとスタンダードゾーンの双方で多数の強いブランドを育成
 - 収益力の強化：利益マネジメントの強化と業務効率化の推進



こだわりゾーンの新商品 (2011年6月発売)

松竹梅^{しらかべぐら みお}白壁蔵「滯」スパークリング清酒

ほどよい酸味とほんのり甘い味わい、爽やかな泡立ちが楽しめる発泡性清酒“松竹梅白壁蔵「滯」スパークリング清酒”は、清酒の消費数量が減少する中、清酒の新しい魅力を伝える存在として注目されています。

中小容量の商品をチューハイ感覚で楽しむ、20代・30代の男女のニーズに合った、低アルコールで飲みやすいほんのり甘い味わいの酒質を実現しました。



スタンダードゾーンの新商品 (2011年9月発売)

松竹梅「天」900mlエコパウチ

独自の二段酵母仕込によってコクとキレを同時に実現したすっきり辛口の味わいが特長の松竹梅「天」は、2003年の発売以来、多くのお客様にご愛顧いただいています。

“松竹梅「天」900mlエコパウチ”はオリジナルのパウチパックを使用した清酒で、同容量の紙パック商品と比較して約50%の減量化を実現した環境にやさしい商品です。



成長事業

海外酒類事業、日本食材卸事業

宝酒造グループ

事業方針 海外で日本食材卸販売網を構築するとともに、両事業のシナジーを活かして事業成長を加速させ、グループ全体の成長を牽引する。

- 事業戦略**
- 海外酒類事業の拡大：日本食レストラン市場におけるシェアアップと量販チャンネルにおける間口拡大
 - 日本食材卸販売網の構築：海外における販売網の構築・拡大

海外酒類事業の拡大

海外清酒市場で
圧倒的シェアNo. 1への基盤構築

- 日本食レストラン市場での販売拡大とシェアアップ
- 量販チャンネルの取り扱い間口拡大
- 高品質の清酒を世界に向けて安定供給

日本食材卸販売網の構築

販売網を構築・拡大し
欧州市場における事業拡大を加速

- フーデックス社による欧州流通網の拡大
- 欧州の日本食レストランへのアプローチ強化

海外酒類・日本食材卸の両事業を通じて
日本食文化を世界に広め、海外事業の拡大を図る

成長事業

調味料・酒精事業

宝酒造グループ

事業方針

加工業務用調味料事業と酒精事業のそれぞれにおいて事業拡大を図るとともに、事業統合を活かしたBtoB事業の成長を図る。

事業戦略

- 加工業務用調味料事業の拡大：技術力に基づく商品開発と提案営業で顧客の課題解決に貢献
- 酒精事業の拡大：新たなスキームによる事業成長と競争優位性の確立による収益力強化

成長事業

遺伝子工学研究事業

タカラバイオグループ



事業方針

基盤技術開発と新興国をはじめとした国内外の市場開拓を進め、売上拡大と収益力強化を図る。

事業戦略

- 遺伝子工学から細胞生物学へ：細胞生物学分野の新製品開発強化、技術的シナジーのある企業等との提携推進
- 研究支援から産業支援へ：遺伝子増幅(PCR)技術の応用領域の開拓
- 基礎研究支援から先端研究支援へ：高速シーケンス関連試薬の開発

育成事業

健康食品事業

タカラバイオグループ

宝ヘルスケア

事業方針

将来の飛躍的な成長に向け、売上拡大および事業基盤の確立を図る。

事業戦略

- タカラバイオの技術力による健康食品素材のエビデンス強化
- 効果的かつ効率的な費用投下による通信販売顧客の獲得
- BtoB市場での売上拡大



育成事業

遺伝子医療事業

タカラバイオグループ

事業方針

国内初の体外遺伝子治療の商業化を目指し、臨床開発を進めるとともに、細胞医療関連事業の売上拡大を目指す。

事業戦略

- 体外遺伝子治療の商業化に向けた臨床開発の推進
- 技術・ノウハウを利用した創薬支援事業の強化
- エビデンス強化のためのがん免疫細胞療法の臨床開発の推進
- 細胞医療関連事業(がん免疫細胞療法に関する技術支援、培地・バッグ)の売上拡大

遺伝子医療の臨床開発スケジュール

治療	前臨床試験 / 臨床研究	第I相臨床試験	第II相臨床試験	第III相臨床試験	商業化
HSV-TK遺伝子治療	→	→	→ 国内・第I相臨床試験(2013年3月期終了予定) → 日韓共同治験・第I / II相臨床試験(2014年3月期開始予定) → 国内・臨床研究(2013年3月期終了予定)		2018年3月期
がん治療薬HF10	→	→	→ 米国・第I相臨床試験(2013年3月期終了予定)		2019年3月期
MazF遺伝子治療	→	→	→ 米国・第I相臨床試験(2016年3月期終了予定)		2023年3月期
TCR遺伝子治療	→	→	→ 国内・臨床研究(2013年3月期終了予定) → 国内・臨床研究(次世代ベクター)(2013年3月期開始予定) → 国内・第I相臨床試験(次世代ベクター)(2014年3月期開始予定)		

→ 臨床試験 → 臨床研究

業績ハイライト

宝ホールディングス

連結売上高

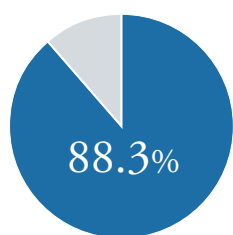
198,690百万円
(前期比+4.7%)

連結営業利益

9,264百万円
(前期比+11.2%)

宝酒造グループ

売上高構成比



売上高

175,503百万円
(前期比+5.2%)

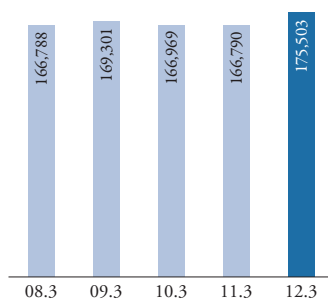
営業利益

6,768百万円
(前期比+3.0%)



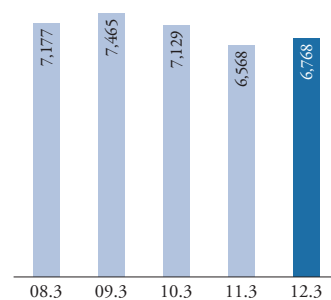
売上高

(百万円)



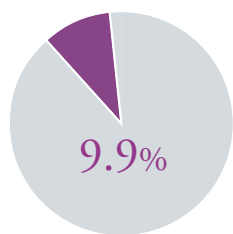
営業利益

(百万円)



タカラバイオグループ

売上高構成比



売上高

19,578百万円
(前期比+4.5%)

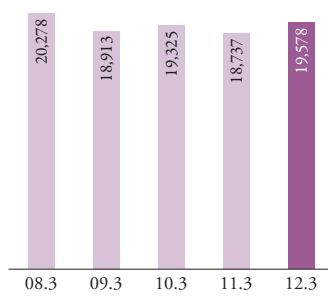
営業利益

1,547百万円
(前期比+41.0%)



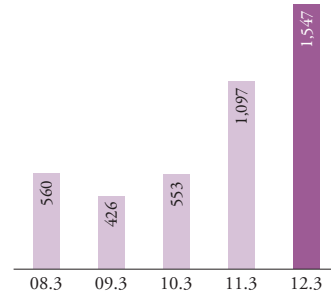
売上高

(百万円)



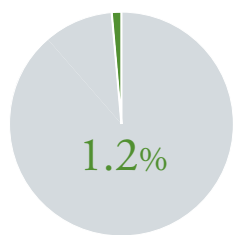
営業利益

(百万円)



宝ヘルスケア

売上高構成比



売上高

2,338百万円
(前期比-8.9%)

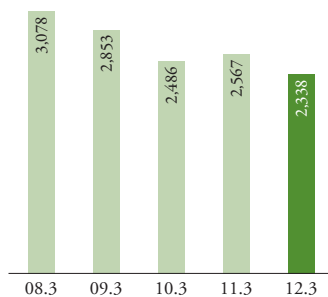
営業損失

-114百万円
(前期比137百万円改善)



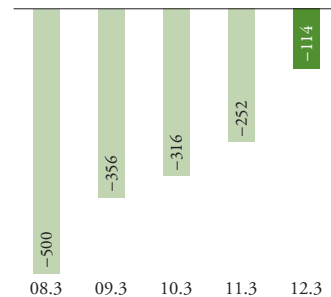
売上高

(百万円)



営業損失

(百万円)



業績概況

2012年3月期(以下、当期)の連結売上高は、宝酒造グループおよびタカラバイオグループともに増収となった結果、前期比4.7%増収の198,690百万円となり、過去最高を記録しました。

利益面では、全てのグループで増益となった結果、営業利益は前期比11.2%増益の9,264百万円となりました。

業績概況

当期の宝酒造グループは、ソフトアルコール飲料の大幅な増収をはじめ、本みりんを除く全てのカテゴリーで売上を伸ばしました。加えて、前期に連結子会社化したフーデックス社(仏国)の業績が通年寄与した影響により、売上高は前期比5.2%増収の175,503百万円となりました。

利益面では、原材料価格の高騰を受け売上原価率が上昇したことに加え、配送拠点の震災被害に伴う運送費の増加、また焼酎・ソフトアルコール飲料の売上増に伴う販売促進費の増加があったものの、営業利益は前期比3.0%増益の6,768百万円となりました。

業績概況

当期のタカラバイオグループは、主力の遺伝子工学研究事業において、研究用試薬が円高にもかかわらず好調に売上を伸ばしたに加え、理化学機器も質量分析装置等を中心に売上を伸ばしました。また遺伝子医療事業においてはがん免疫細胞療法の技術支援サービスの売上が好調に推移し、医食品バイオ事業ではキノコ関連製品が増収となりました。以上の結果、売上高は前期比4.5%増収の19,578百万円となりました。

利益面では、売上原価率が前期に引き続き改善し、販売費及び一般管理費がほぼ前期並みとなった結果、営業利益は1,547百万円と、前期比41.0%の大幅な増益になりました。

業績概況

当期の宝ヘルスケアは、フコイダン関連製品やヘアケア製品等を中心とするOEM事業が好調だったものの、茶飲料PB供給事業の売上減少から、売上高は前期比8.9%減収の2,338百万円となりました。

利益面では、利益率の高いフコイダン関連製品の売上拡大により、売上総利益が前期比3.2%増益の845百万円となりました。また、販売費及び一般管理費について各費目での削減に努めた結果、営業損失は114百万円と、前期に比べ137百万円の収支改善となりました。なお、宝ヘルスケアでは、健康食品事業育成のための広告宣伝費を先行的に投下しているため、営業損失を計上しています。

(注) このページに掲載しているセグメント概況は、報告セグメントに関するものであります。報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入り手可能であり、最高経営意思決定機関が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている「宝酒造グループ」、「タカラバイオグループ」、「宝ヘルスケア」の3つのセグメントで構成されています。なお、P30に掲載している「連結財務ハイライト」では、印刷事業などの機能会社グループの業績や、連結消去などをネットして「その他」に含めて記載しております。

主な活動

2011年 4月	長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」スタート 「TaKaRaグループ中期経営計画2013」スタート
12月	株主還元策として220万株(1,070百万円)の自己株式を取得

主な活動

2011年 6月	松竹梅白壁蔵「霧」スパークリング清酒を発売
9月	松竹梅「天」エコパウチを発売
10月	本格麦焼酎「知心剣」<洞窟甕貯蔵>を発売
2012年 3月	本格焼酎「琥珀のよかいち」<麦>を発売
3月	ミント焼酎「MIN+」を発売

主な活動

2011年 5月	バイオ医薬品の安全性試験サービスを日本で開始
6月	ヒト全ゲノムシーケンス解析サービスを開始
7月	臨床試験での使用を目指したiPS細胞作製用プラスミドベクターの製造供給に関する契約を京都大学iPS細胞研究所と締結
10月	非ホジキンリンパ腫を対象とした遺伝子治療の臨床開発プロジェクトを開始
2012年 1月	株式会社免疫生物研究所と販売契約を締結
3月	エイズ遺伝子治療の臨床試験実施申請資料を米国食品医薬品局へ提出

主な活動

2011年 6月	「グルコサミン+アガロオリゴ糖」をリニューアル発売
10月	寒天由来「アガロオリゴ糖」を配合した美容サプリメント「アガロビューティー プラセンタ」を発売

株主・投資家の皆様へ



左から、代表取締役会長 大宮久、代表取締役社長 柿本敏男

TaKaRaグループが持株会社体制に移行して10年。
一層の企業価値向上に向けて、一定の道筋を
つけることができました。
これを機に経営者の若返りを図り、
環境変化に強いバランスのとれた事業構造の確立に
スピード感を持って取り組んでまいります。

この度、2012年6月28日開催の定時株主総会および取締役会を経て、前代表取締役社長の大宮久が代表取締役会長に、前代表取締役副社長の柿本敏男が代表取締役社長にそれぞれ就任し、新たな経営体制が発足しました。

代表取締役会長の大宮久は、宝ホールディングス株式会社の前身である寶酒造株式会社時代を含めて19年間、代表取締役社長としてTaKaRaグループの経営を担ってきました。その間に、宝酒造グループでは、差別化された品質を持つ商品を開発・育成する体制を整え、安定的な収益を生み出しながら海外などの成長分野に打って出る経営基盤を構築することができました。また、自ら事業を立ち上げ、さらなる成長を目指して2004年に上場したタカラバイオグループでは、研究開発投資を行いながらも安定的な利益成長が見込める経営基盤を確立し、2012年3月期には期末配当を開始しました。

このように、今後の成長に向けて一定の道筋をつけることができたのを機に、経営陣の若返りと次世代を担う経営者の育成を図るため、新たな経営体制へと転換いたしました。今後は、社長の柿本敏男が経営の現場を担いつつ、会長の大宮久が豊富な経験や人脈を活かしてサポートしていく体制で「TaKaRaグループ中期経営計画2013」の達成および長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けた取り組みを加速させてまいります。

2012年7月

大宮久

宝ホールディングス株式会社
代表取締役会長

柿本敏男

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長

> 2012年3月期（以下、当期）業績の振り返り

グループ一丸となって過去最高の連結売上高を達成しました。

当期の日本経済は、東日本大震災の甚大な被害、原発事故に端を発する電力供給不安から、経済活動全般にわたって大きな制約を受けたほか、円高や欧州金融危機といった世界経済の動向、また国内の年金不安や消費税増税への懸念などから、個人消費は低調に推移しました。

このような環境のなか、当期の当社グループの連結業績は、宝酒造グループ・タカラバイオグループともに増収となり、売上高は前期比4.7%増収の1,986億90百万円と、過去最高を記録しました。営業利益は、宝酒造グループ・タカラバイオグループの増益に加え、宝ヘルスケアの損失も改善し、前期比11.2%増益の92億64百万円となりました。当期純利益については、震災による特別損失を計上したほか、法人税率変更に伴うマイナスの影響を受けたものの、前期比5.5%増益の39億95百万円となりました。厳しい経営環境の中、大きな成果を残すことができたと考えています。

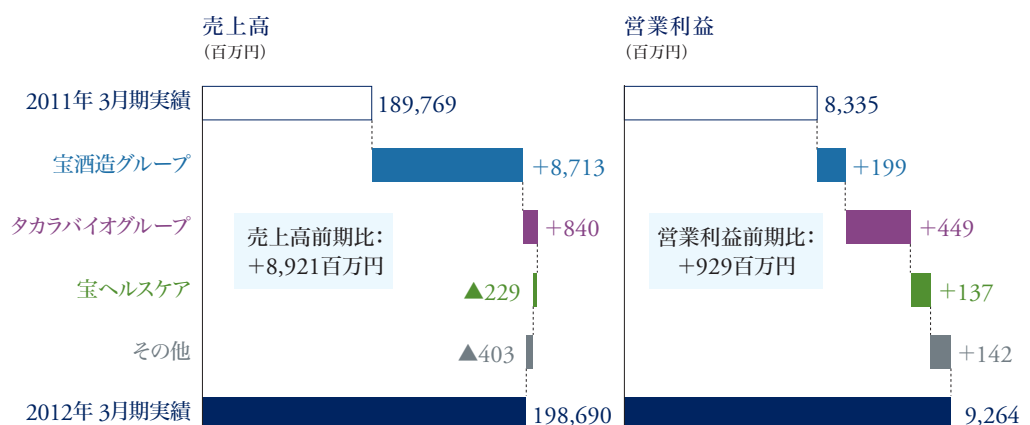
事業グループ別に見ますと、宝酒造グループでは、ソフトアルコール飲料の「焼酎ハイボール」や「直搾り」が大幅に売上を伸ばしたほか、焼酎や清酒も好調に推移しました。加えて、前期に連結子会社化したフーデックス社（仏国）の業績が通年寄与するとともに、同期間比較でも大幅に増加したことから、売上高は前期比5.2%の増収となりました。利益面では、原材料価格が高騰し、高止まりの状態が続いていますが、売上の増加によってこれを克服し、営業利益は前期比3.0%の増益となりました。

タカラバイオグループにおいては、主力の研究用試薬が円高によるマイナスの影響を受けたものの前期比で増収となったほか、理化学機器、がん免疫細胞療法の技術支援サービス、キノコ関連製品などの売上を伸ばし、売上高は前期比4.5%の増収となりました。売上の伸びに加え、原価率が改善し、営業利益は前期比41.0%の大幅な増益となり、過去最高益を記録しました。

宝ヘルスケアにおいては、茶飲料PB供給事業の減収によって、売上高は減収となったものの、利益率の高いフコイダン関連製品の売上を伸ばし、営業損失は大幅に改善しました。

当期の業績は、各事業グループにおける取り組みが着実に利益に結びついてきた結果であり、当社グループが目指す「環境変化に強いバランスのとれた事業構造の確立」に向けた一定の成果であると認識しています。

2012年3月期業績の増減要因





> 「TaKaRaグループ中期経営計画2013」（以下、中計2013）初年度の評価
中計2013の目標達成に向け、着実な第一歩となりました。

当社グループは2011年4月、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」（以下、長期ビジョン）の実現に向けて新たなスタートを切りました。その第1ステップとして「国内における安定成長の実現」と「海外で大きく成長するための事業基盤の拡大」を掲げた3ヵ年計画の中計2013を策定し、具体的な取り組みを進めています。計画初年度の当期は、最終年度（2014年3月期）の定量目標に対して順調な進捗状況にあると評価しています。

まず、売上高（目標：2,000億円以上）に関しては、2013年3月期に1年前倒しでの達成を予算化できる水準まで伸ばすことができました。また、営業利益（目標：100億円以上）に関しては、3年間で16億円以上の増益とする目標に対して、当期は9億円以上の増益となりました。目標達成に向けて、引き続き事業推進を加速させてまいります。

長期ビジョンに掲げる「環境変化に強いバランスのとれた事業構造の確立」には、国内・海外の双方での成長と、各事業における収益向上が不可欠です。宝酒造グループにおいては、国内酒類事業が基盤事業として安定的なキャッシュ・フローを生み出しており、海外酒類事業および日本食材卸事業に対する投資も成果と

**国内外において環境変化に強いバランスのとれた
 事業ポートフォリオへ**





して表れてきています。また、タカラバイオグループにおいては、中国での順調な売上拡大に加え、インドで研究用試薬の販売を本格化させるなど、新興国においても積極的な市場開拓を進めるほか、将来の成長事業に位置付ける遺伝子医療事業でも売上を伸ばしながら、遺伝子治療の商業化に向けた臨床開発を推し進めています。宝ヘルスケアについては、健康食品の売上増加によって収支が改善しており、2013年3月期での黒字化を見据えています。

> TaKaRaグループの経営方針

明確な長期戦略に基づく事業展開を継続してまいります。

1842年に京都・伏見の造り酒屋として創業して以来、170年の歴史を有する当社グループは、酒類・調味料事業をはじめ、自社の強みを活かせる領域で、息の長い挑戦を続けてきました。技術に根ざした独自性の高い事業や、高い技術力で差別化された商品を生み出し、長期的な視点に立って育成することが、当社グループの企業風土であり、グループの発展を支えつづける経営方針です。

近年、宝酒造グループの主力市場である国内酒類市場は縮小傾向にあるうえ、消費者ニーズは細分化が進み、かつてのような大ヒット商品が生まれにくい環境となっています。また、タカラバイオグループの主力市場である研究用試薬市場は、技術のトレンド変化が激しく、製品のライフサイクルも短くなっています。

このような環境の中、持続的な成長を実現していくには、「お客様が潜在的に持つおられるニーズを掘り起こす」精神で、たえず世の中の流れをつかみ、差別化された幅広い製品を取りそろえることが重要であり、そうすることで1つの製品の販売力が低下したとしても他の製品群でカバーできると考えています。事業・商品・地域の各階層で収益構造のバランスをとり、現在の事業ポートフォリオをさらに強化するという長期ビジョンも、こうした考え方から生まれたものであります。

当社グループにはそれを可能にする技術力があり、生み出された製品を新しい提案として育成してきた実績があります。これが当社グループの強みであり、今後の事業展開を進めていくうえでも磨き続けていく考えです。

＞ 海外売上高の拡大に向けた方針

日本食文化を世界に広めることで、 宝酒造グループの海外売上高を伸ばしてまいります。

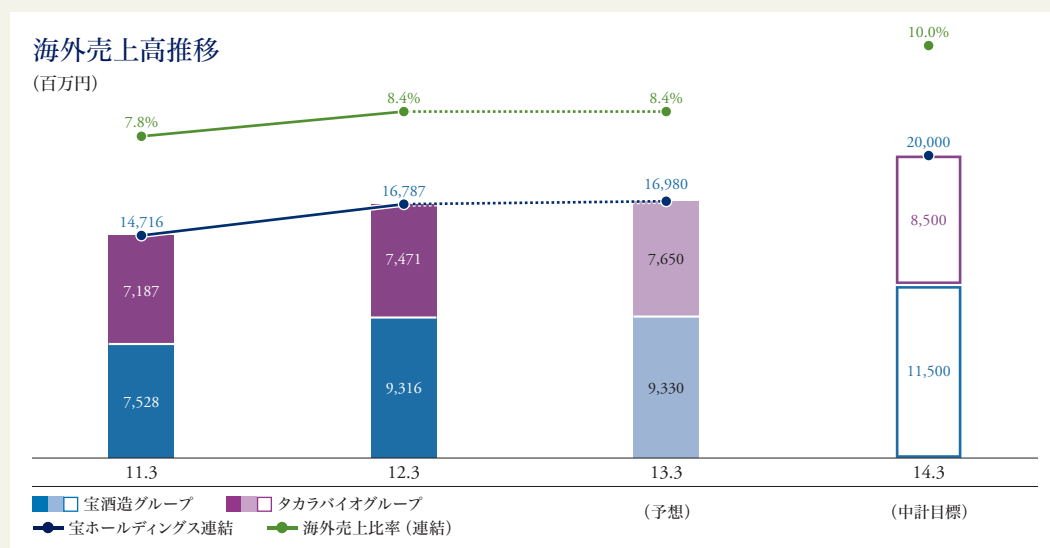
中計2013に定める海外売上高比率の目標（10%以上）達成に向けたポイントは、宝酒造グループの海外売上高を高めることです。タカラバイオグループの海外売上高比率は38%を超え、すでに高い水準にはありますが、宝酒造グループの海外売上高比率は5%程度であり、中計2013の最終年度（2014年3月期）に向けて、売上高で52.8%増（2011年3月期対比）を目標としています。高い目標ですが、「環境変化に強いバランスのとれた事業構造」の実現に向け、これは何としても成し遂げたいと考えています。国内で消費者に支持される商品を取りそろえ、海外へと展開することが重要になると認識しています。

先進国での健康志向の高まりや、新興国の所得水準向上を背景に、海外における日本食市場は拡大傾向にあります。宝酒造グループでは、日本の酒類や調味料を販売する海外酒類事業と、欧州で日本食材の輸入卸を行う日本食材卸事業を展開しており、これは当社グループの成長事業の一つと位置付けています。

米国で清酒やみりんなどの製造・販売を行う米国宝酒造は、ドルベースの売上で年率8%以上の成長を続けており、2011年までに増強した清酒工場の生産能力が向こう数年でフル稼働になる見込みです。当期は生産設備増強に伴う減価償却費の増加から、営業利益は減益となったものの、中計2013の最終年度の目標である売上高3,000万ドル・営業利益146万5千ドルの達成に向け、さらなる販売拡大と生産効率の向上を目指します。

欧州で日本食材卸事業を展開するフーデックス社は、ユーロベースの売上で年率20%以上の成長を続けており、売上高営業利益率も12%という高い水準を維持しています。同社はフランスを中心に欧州各国に流通網を拡大しており、中計2013の最終年度の目標である売上高4,300万ユーロ・営業利益513万2千ユーロは、1年前倒しで達成できる見通しです。

宝酒造グループでは、引き続き、海外酒類事業と日本食材卸事業の拡大を図るとともに、両事業を通じて日本食文化を世界に広め、海外売上高の拡大につなげたいと考えています。そして、タカラバイオグループでは、欧米に加えて、中国やインドなどの新興国においても、さらに売上を伸ばし、当社グループ全体の海外売上高を拡大したいと考えています。





> 2013年3月期（以下、次期）の見通しと株主還元策

利益水準の安定的な向上を見込み、増配を決定いたしました。

宝酒造グループでは、原材料価格の高止まりが続く厳しい経営環境の中、差別化商品の開発・育成により国内における収益力を高めつつ、海外で事業拡大を推し進め、バランスのとれた事業構造の確立を目指します。次期の業績については、清酒やソフトアルコール飲料を中心に売上を伸ばし、増収増益を見込んでいます。

タカラバイオグループでは、遺伝子工学研究事業で引き続き国内外市場の積極的な開拓を進めるほか、遺伝子治療の商業化を目指して臨床開発を推し進めてまいります。次期の業績については、研究用試薬を中心に売上を伸ばし、研究開発費の増加を織り込んだうえで増収増益を見込んでいます。

宝ヘルスケアでは、売上高は若干の減収となるものの、主力のフコイダン関連製品の売上増加や販管費の抑制によって、営業黒字化を見込んでいます。

これらの結果、当社グループの連結業績見通しは、売上高2,028億円（当期比2.1%増）、営業利益95億円（同2.5%増）と増収増益を見込んでいます。

株主還元については、引き続き、安定的な配当の継続を基本に業績連動の要素も加味し、配当と資本効率の向上に資する自己株式取得を併せて実施します。次期の配当は、50銭の増配を実施した当期と同様に1株当たり9円を予定していますが、併せて自己株式取得を通じて積極的な株主還元に努め、50%以上の株主還元性向を維持していく方針です。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

社長就任のご挨拶

この度、第101回定時株主総会を経て、
6月28日付で宝ホールディングス株式会社の
新社長に就任いたしました。
「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、
たゆまぬ前進を続けてまいります。



この度、代表取締役社長に就任いたしました柿本敏男でございます。

TaKaRaグループは、酒類・調味料事業という安定的な収益基盤事業と、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を併せ持つ、独自性の高い事業ポートフォリオを築き上げてきており、今後は国内外において現在の事業ポートフォリオをさらに強化することで、より一層、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを目指しています。

この方向性を示したのが長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」であり、その実現に向けた第一ステップが「TaKaRaグループ中期経営計画2013」であります。私自身も副社長として、長期経営ビジョンおよび中期経営計画の策定にも携わっており、社長就任にあたり、これらの経営計画をさらに推し進めていく覚悟を新たにしております。

私は1973年に寶酒造株式会社（現 宝ホールディングス株式会社）に入社して以来、長らく技術・生産畑を歩んできました。新製品の開発や品質向上に注力し、2010年からは副社長として、グループ経営全般に携わるとともに、宝酒造の営業部門も統括してまいりました。こうした経験から、「商品開発のヒントは現場にある」というのをモットーとしております。

国内の酒類市場においては、少子高齢化や飲酒傾向の変化、デフレによる節約志向といった厳しい要因が存在しています。また、バイオの技術は日進月歩し、開発競争は激化しています。しかしながら、技術力で差別化された、顧客に支持される付加価値の高い商品・サービスを開発・育成することで、新たな成長の機会を手にすることができると確信しており、先頭に立ってグループの力を結集してまいりたいと考えております。

これからも新たな経営体制のもと、さらなる成長の実現と企業価値向上に向けて、たゆまぬ努力を続けてまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

柿本敏男

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長

CSR

TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスをお届けするとともに、医療の進歩に貢献し、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで、様々なステークホルダーの期待に応えていきます。

CSR活動の基本方針

TaKaRaグループは、社会の一員として企業理念に則り、本業の事業活動を通じて社会に貢献していくことをすべての基本としています。国内外を問わず様々な環境変化が予想されるなか、グループ全体の企業価値向上を実現していくためには、成長戦略と一体化したCSR活動の強化が不可欠であると考えています。

こうした認識のもと、「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、国内外のグループ会社一体となったコンプライアンス体制の構築に加え、生物多様性保全の推進、CO₂排出量削減などの環境活動の強化、グループ全体の成長に不可欠な風土・人財の育成など、CSR活動をグループ全体でより一層強化していくことを決めました。

CSR活動の重点分野

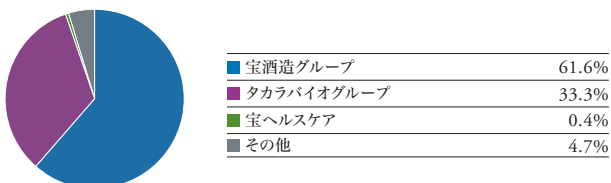
TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスを提供し続けることが最も重要なCSR活動であると考えています。こうした商品やサービスを通じて、人々の暮らしを豊かなものにするとともに、環境保全などを通じて社会に貢献しながら、グループの持続可能な成長の実現を図っています。

TaKaRaグループのCSR活動

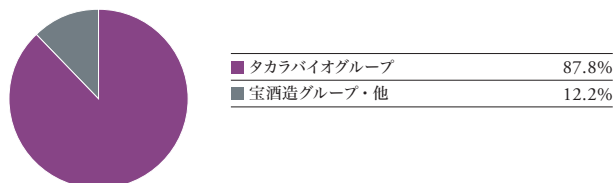
主要なCSR活動は、グループ全体の売上の約90%を占める宝酒造グループの取り組みが中心となっています。宝酒造グループの主要事業である酒造りは、穀物や水など自然の恵みのもとに、微生物という自然の働きによって行われます。酒造りは、こうした自然の力を借りて初めて行うことができるため、「自然との調和」を第一に掲げ、自然環境に配慮した活動を展開しています。加えて、酒類を販売する企業にとって避けて通れない空容器問題や、適正飲酒の啓発活動もまた、CSR活動の重要課題であると認識しています。

一方で、タカラバイオグループは、売上こそグループ全体の約10%ですが、従業員数ではグループ全体の30%以上を占めるとともに、研究開発費ではグループ全体の約90%を占めています。タカラバイオグループは、革新的なバイオ技術を通じ、がん領域やエイズといったアンメット・メディカルニーズの高い疾病を対象とした遺伝子治療や細胞医療という先端医療技術の開発や商業化を進めています。タカラバイオでは、これらの研究開発について、生命倫理の観点からも適正に実施していきます。

従業員構成



研究開発費構成



宝酒造におけるCSR活動は、以下のホームページおよび「緑字企業報告書」でご確認いただけます。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/index.htm>

CSR活動の重点分野における取り組み

品質と安全：品質検査（宝酒造）

宝酒造は、食の安心・安全に対するニーズに応えるため、確かな品質管理体制のもと、商品企画から製造・出荷に至るまでを実施しています。さらに、お客様に正確な情報をお伝えるため、事前審査のうえ、原材料・栄養成分などをラベルに表示しています。



品質と安全：誤飲防止（宝酒造）

宝酒造は、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めて缶チューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップに同様の点字表示を行いました。



品質と安全：適正飲酒（宝酒造）

宝酒造は、酒類を販売する企業の重要な社会的責任として、「ルールを守った節度ある飲酒」を呼びかける様々な活動を行っています。お酒の正しい知識や飲み方をまとめた冊子「お酒おつきあい読本」を発刊しているほか、1995年からは未成年者飲酒、飲酒運転防止のための注意表示を酒類製品に表示しています。



生命倫理と安全：倫理面・安全面の審査（タカラバイオ）

タカラバイオでは、ヒト由来の組織・細胞・臨床材料・ゲノム・遺伝子等を用いた研究開発事業、これらを用いた遺伝子検査・受託業務に関する事業およびヒト組織・細胞製品の供給に関する事業等を行っています。これらの事業活動を行ううえで、関連法規の遵守はもとより、人権の尊重ならびに当該事業活動を通じた社会貢献が適切に行われることが重要であると認識し、「生命倫理・安全規程」を定め、社内に設置した生命倫理委員会の審査を厳格に行っています。

環境保全：4Rの推進（宝酒造）

酒類業界にとって、酒類などが消費された後に発生する空容器処理は重要な問題です。宝酒造では、新たな容器の発生を回避する「はかり売り」を実施するなど、容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）を推進しています。



社会貢献：環境啓発活動（宝ホールディングス・宝酒造）

宝ホールディングスでは、公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を1985年に設立し、以降毎年、自然環境保護活動や研究に地道に取り組む団体や個人に対して助成活動を行っています。第1回からの助成先数は延べ291件、助成金累計は約1億4,000万円になりました。また、宝酒造では、2004年から、次世代を担う子供たちに自然の尊さや生物多様性の大切さを伝える「宝酒造 田んぼの学校」を開校し、環境教育を実施しています。

「宝酒造 田んぼの学校」が 第9回企業フィランソロピー大賞特別賞を受賞

環境イベント「宝酒造 田んぼの学校」が、公益社団法人日本フィランソロピー協会が主催する第9回企業フィランソロピー大賞において「特別賞」を受賞しました。企業フィランソロピー大賞は、「企業の本業を活かした社会貢献活動を顕彰する」ことを目的に2003年に創設された賞で、今回の受賞は、「酒造会社その最も重要な原料であるお米に着目し、お米が産出される田んぼに社会貢献の場を発見したこと」に対する高い評価に基づいています。

「宝酒造 田んぼの学校」は、田植え、草取り、稲刈りなどの農作業体験とともに、田んぼやその周辺の自然観察、さらには収穫したお米が餅や本みりんになる過程を学習する環境教育プログラムで、参加者は自然の恵みと命のつながりを学ぶことができます。2004年から2010年までは千葉県で、2011年からは京都府で開催しています。



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

コーポレート・ガバナンス体制について

当社は監査役設置会社であり、2012年6月28日現在、監査役会は5名（うち3名は社外監査役）で構成されています。また、取締役会は9名で構成されており、うち1名は社外取締役です。

この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

また、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定し、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件の事前協議や報告を義務付けています。

監査役監査、内部監査および会計監査について

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要なに応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。内部監査については、被監査部門から独立した監査室を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査室、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に意見交換を行うほか、情報・意見交換、協議を行う等、相互連携を図っています。

コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情

当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2012年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の70.8%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2012年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社37社および関連会社5社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

② 当社のグループ会社管理について

タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「タカラバイオ連絡会議」等の会議体では、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針 (買収防衛策) について

当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主の皆様との共同の利益を確保し、又は向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針(買収防衛策)」を導入しました。

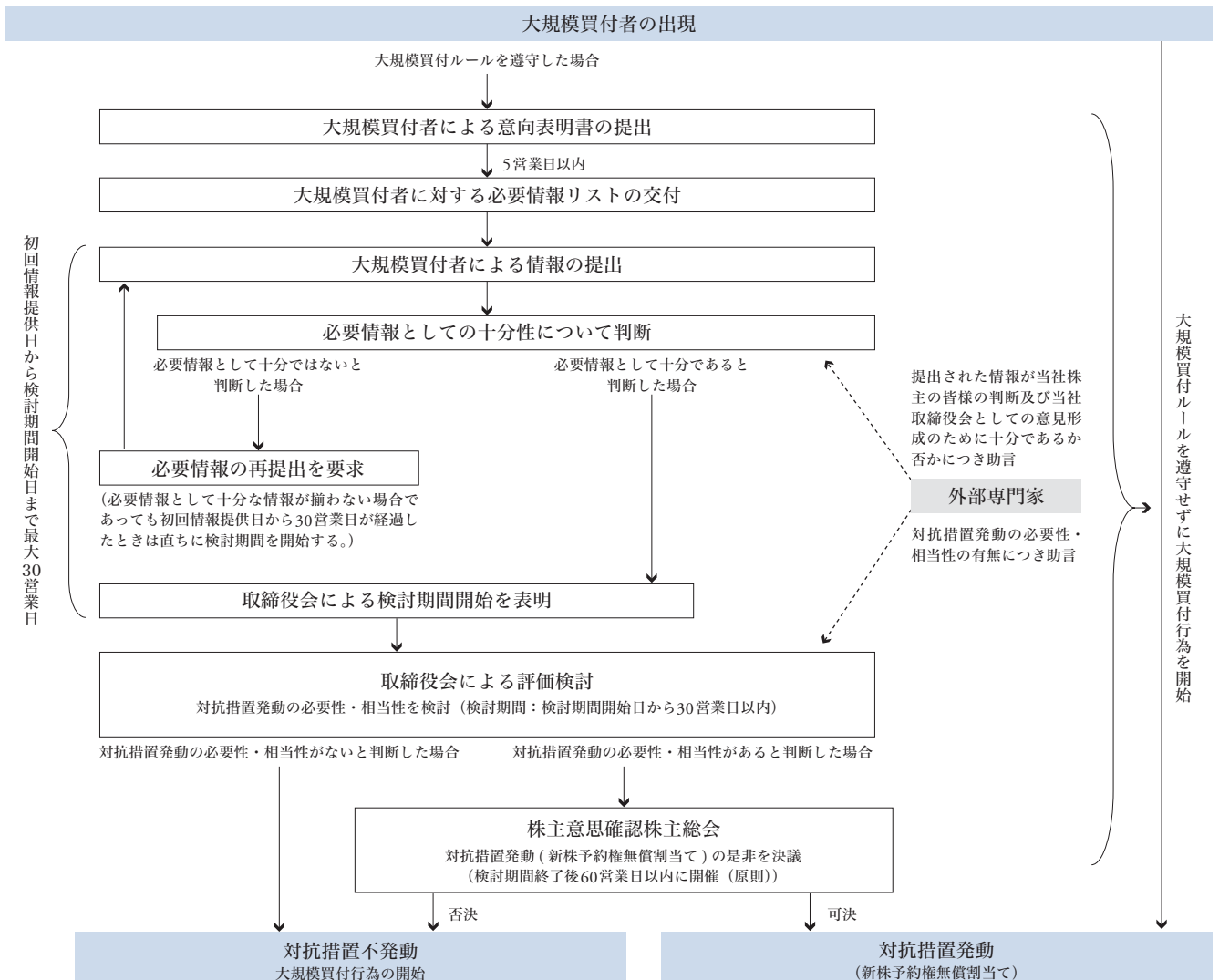
しかし、株主の皆様のご意思をより多く反映させることが株主の皆様との共同の利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様のご決議に付すこと、および、対抗措置発

動の判断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議しました。その内容につきましては、当社ホームページ (<http://www.takara.co.jp/>) 並びに有価証券報告書において概要を掲載しておりますのでご参照願います。

なお、2007年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において、当買収防衛策の導入が承認可決され、2010年6月29日開催の当社第99回定時株主総会において、その一部変更及び継続が承認可決されています。

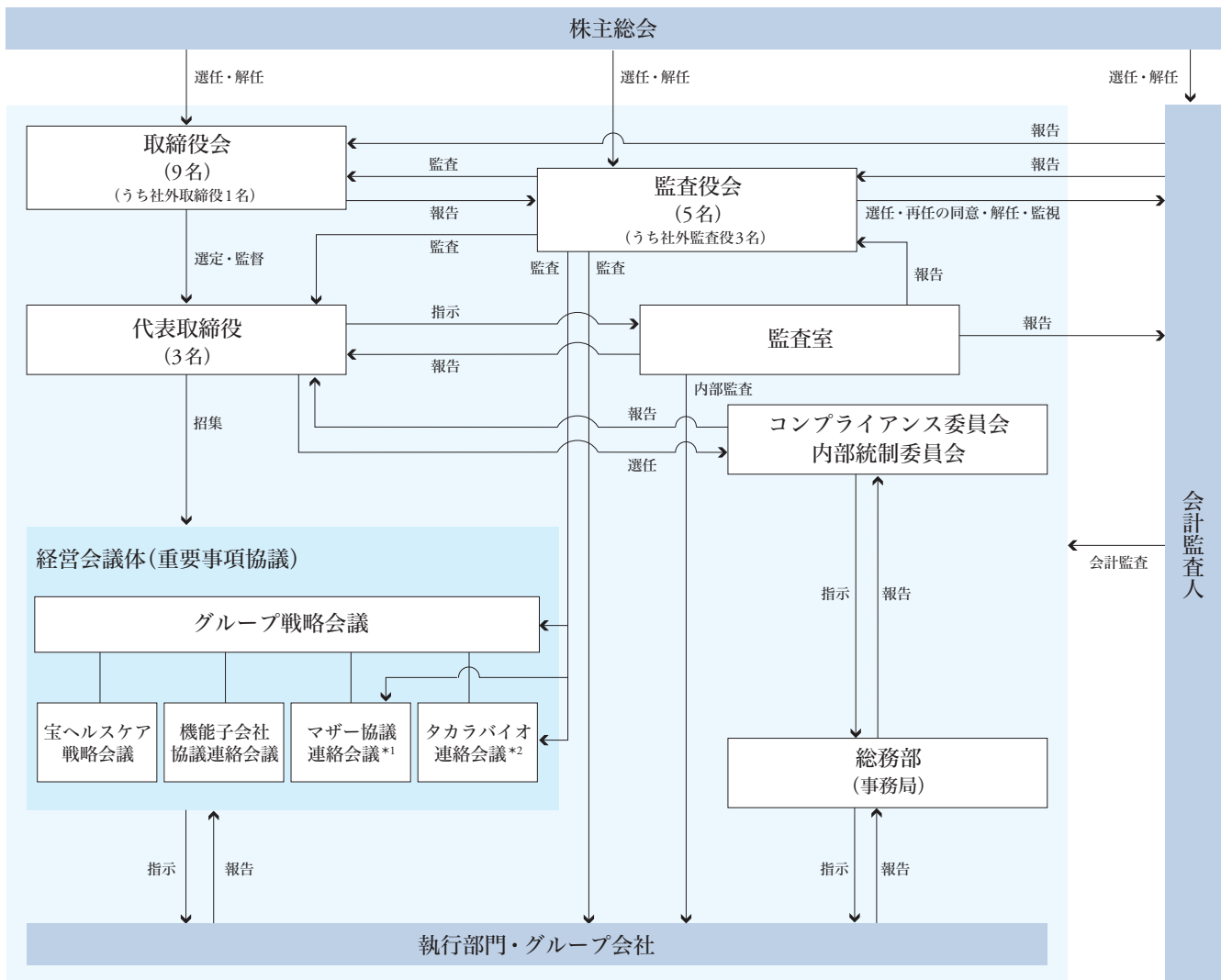
大規模買付ルール

- 1 当社取締役会に対して、事前に大規模買付行為に関する必要十分な情報の提出
- 2 (a) すべての大規模買付者は、検討期間開始日から30営業日を上限とする当社取締役会による評価検討が終了するまでは、大規模買付行為を開始してはならない
- (b) 株主意思確認株主総会が開催される場合には、株主意思確認株主総会が終了するまで、大規模買付行為に着手してはならない



コーポレート・ガバナンス体制の模式図

(2012年6月28日現在)



*1 マザー(宝酒造グループ)協議連絡会議

*2 タカラバイオ連絡会議は、タカラバイオ(株)の業績・活動状況等の報告を目的としたものであり、同社の取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

経営会議体の概要

グループ戦略会議

宝ホールディングス(株)の取締役、監査役ならびに宝酒造(株)・タカラバイオ(株)・宝ヘルスケア(株)の代表取締役で構成され、グループ経営方針、中・長期計画、年度予算、年度活動計画、年度投融资計画、配当政策、半期ごとの業績レビューなど、TaKaRaグループのグループ経営全体に関わる重要事項の協議を行っています。

マザー協議連絡会議

宝ホールディングス(株)の取締役、監査役ならびに宝酒造(株)の取締役、監査役、執行役員で構成され、宝酒造グループの運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項に関する事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

タカラバイオ連絡会議

宝ホールディングス(株)の代表取締役、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、監査役ならびにタカラバイオ(株)の取締役、監査役、執行役員で構成され、タカラバイオ(株)の業績報告および活動報告を行っています。

宝ヘルスケア戦略会議

宝ホールディングス(株)の代表取締役、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、タカラバイオ(株)の代表取締役、医薬品バイオ担当役員および宝ヘルスケア(株)の社長で構成され、宝ヘルスケア(株)の運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項に関する事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

機能子会社協議連絡会議

宝ホールディングス(株)の事業管理統括役員、事業管理担当役員、経理担当役員、財務・IR担当役員、および機能子会社(大平印刷、川東商事、宝ネットワークシステム)の社長で構成され、機能子会社の運営・業務・財政状態・経営成績等に与える重要事項の決定や、重要事項の発生に対する対応などの特定事項の事前協議ならびに業績報告、活動報告を行っています。

経営会議体・委員会への役員の出席状況

取締役・監査役	会議体（開催頻度）						
	グループ 戦略会議 （年6回）	マザー 協議連絡会議 （月1回）	バイオ 連絡会議 （月1回）	宝ヘルスケア 戦略会議 （年4回）	機能子会社 協議連絡会議 （年4回）	コンプライアンス 委員会 （年2回）	内部統制 委員会 （年2回）
代表取締役会長 大宮 久	○	○	○	○		○	○
代表取締役副会長 大宮 正	○	○	○	○	議長	○	○
代表取締役社長 柿本 敏男	議長	議長	議長	議長		委員長	委員長
取締役 矢野 雅晴	○	○				○	○
取締役 松崎 修一郎	○	○	○	○	○	○	○
取締役 岡根 孝男	○	○				○	○
取締役 中尾 大輔	○	○				○	○
取締役 仲尾 功一	○		○	○		○	○
取締役（社外取締役） 植田 武彦	○	○				○	○
常勤監査役 釜田 富雄	○	○	○			○	○
常勤監査役（社外監査役） 半田 邦博	○	○	○			○	○
監査役 友村 秀夫	○	○	○			○	○
監査役（社外監査役） 香川 孝三	○	○				○	○
監査役（社外監査役） 北井 久美子	○	○				○	○

社外取締役から投資家の皆様へ

植田 武彦 宝ホールディングス株式会社 社外取締役

社外取締役の役割について

社外取締役として、投資家の皆様へご挨拶申し上げます。私は、界面活性剤をはじめ各種工業用薬剤を製造・販売する第一工業製薬株式会社の代表取締役社長を6年間務めた後、2007年に宝ホールディングス株式会社の社外取締役に就任いたしました。上場企業経営者の経験に照らし、宝ホールディングスの取締役会において、適宜発言を行うとともに、監査役会と連携して業務執行担当役員へのヒアリングを行い、経営監督機能を強化する役割を担っています。

コーポレート・ガバナンスについて

コーポレート・ガバナンスの観点から見て、宝ホールディングスには、二つ特徴があると認識しています。一つは、大宮久前社長（現会長）が19年間に亘り社長として築き上げてきた厳しい社風です。その厳しい社風は、たえずステークホルダーの満足につながることを価値判断の根底に置く経営姿勢と、外的要因を言い訳にしない目標・計画達成へのこだわりに現れています。

二つ目の特徴は、ガバナンス体制です。宝ホールディングスは、宝酒造、タカラバイオ、宝ヘルスケアという3つの異なる特性を持つ事業会社を中核に、37社の連結子会社を有しており、企業グループとして整合性のある意思決定を行っていくために、取締役会の他に重要事項を協議する経営会議体を複数設置し、これらを通じて子会社の財務状況についても細心の注意を払っています。この仕組みはグループ経営の最適化を図るうえで、またグループ会社による不正を防ぐうえでも、有効であると



認識しており、社外取締役としても積極的に関わっています。

柿本新社長の就任にあたり、宝ホールディングスのコーポレート・ガバナンスを象徴する、これらの特徴が堅持されるよう、社外取締役として客観的な情報に基づき助言を行っていきたいと考えています。

TaKaRaグループの強みについて

TaKaRaグループは、堅実さを基本としながらも、旺盛なチャレンジ精神を持った企業です。お酒の発酵技術をルーツとするバイオ事業への進出や、既存事業と関連性の高い事業の買取による海外進出などは、TaKaRaグループの持つ堅実さとチャレンジ精神のなせる業であり、今後の事業展開を考えたとき、この風土は大きな強みになると考えています。私は社外取締役として、TaKaRaグループの発展を支えてきたこれらの強みを廃れさせることなく、さらなる発展へと導くため、提言を行っていきたいと考えています。

役員

2012年6月28日現在



大宮 久 (69歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役会長
兼 宝酒造株式会社
代表取締役会長
兼 タカラバイオ株式会社
取締役会長

1968年 4月 当社入社
1974年 4月 開発部長
5月 取締役
1982年 6月 常務取締役
1988年 6月 専務取締役
1989年 7月 バイオ事業部門本部長
1990年 4月 東地区酒類事業部門本部長
1991年 6月 代表取締役副社長
1993年 4月 酒類事業部門本部長
6月 代表取締役社長
2002年 4月 宝酒造(株)代表取締役社長
タカラバイオ(株)取締役会長(現職)
2012年 6月 当社代表取締役会長(現職)
宝酒造(株)代表取締役会長(現職)



大宮 正 (62歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役副会長
(事業管理、財務・IR、
経理、環境広報統括)
兼 宝酒造株式会社
代表取締役副社長

2000年 2月 (株)富士銀行国際部参事役
5月 同行退職
6月 当社入社
2001年 4月 経営企画室長
2002年 4月 経営企画統括部長
6月 取締役
2004年 6月 代表取締役副社長
2006年 6月 宝酒造(株)代表取締役副社長(現職)
2012年 6月 当社代表取締役副会長(現職)



柿本 敏男 (61歳)

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長
兼 宝酒造株式会社
代表取締役社長

1973年 4月 当社入社
2001年 4月 技術・供給企画室長
2004年 6月 宝酒造(株)常務取締役
2010年 6月 当社代表取締役副社長
宝酒造(株)代表取締役社長
2012年 6月 当社代表取締役社長(現職)
宝酒造(株)代表取締役社長(現職)



仲尾 功一 (50歳)

タカラバイオ株式会社
代表取締役社長
兼 宝ホールディングス株式会社
取締役

1985年 4月 当社入社
2002年 4月 会社分割に伴い、タカラバイオ(株)取締役就任
2007年 6月 同社代表取締役副社長
2009年 5月 同社代表取締役社長(現職)
Takara Bio USA Holdings Inc.
代表取締役社長(現職)
宝生物工程(大連)有限公司董事長(現職)
宝日医生物技術(北京)有限公司董事長(現職)
6月 当社取締役(現職)
2010年 3月 Takara Korea Biomedical Inc.
代表理事会長(現職)

取締役

矢野 雅晴 (63歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役 環境広報担当

兼 宝酒造株式会社 常務取締役

2002年 4月 (株)みずほ銀行人事部審議役
6月 同行退職

当社常勤監査役

2004年 6月 当社取締役(現職)

2005年 6月 財務部長

松崎 修一郎 (56歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役 事業管理担当、財務・IR担当、経理担当

兼 宝酒造株式会社 専務取締役

1980年 4月 当社入社

2003年 4月 財務グループジェネラルマネージャー

2004年 4月 財務部長

2005年 6月 取締役(現職)

経理部長

IR室長

2007年 6月 財務部長

岡根 孝男 (60歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役 総務担当、人事担当

兼 宝酒造株式会社 取締役

1977年 4月 当社入社

2001年 4月 東京事務所長

2003年 6月 日本合成アルコール(株)常務取締役

2005年 6月 当社総務人事部長

2007年 6月 当社取締役(現職)

中尾 大輔 (58歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役

兼 宝酒造株式会社 専務取締役

1976年 4月 当社入社

2001年 6月 取締役

2002年 3月 当社取締役退任

4月 会社分割に伴い、宝酒造(株)

常務執行役員就任

2006年 6月 宝酒造(株)常務取締役

2009年 6月 当社取締役(現職)

宝酒造(株)専務取締役(現職)

植田 武彦 (72歳)

宝ホールディングス株式会社

取締役(社外取締役)

兼 宝酒造株式会社 取締役(社外取締役)

1998年 6月 第一工業製薬(株)代表取締役社長

2004年 6月 同社相談役

2007年 6月 当社取締役(現職)

監査役

釜田 富雄 (62歳)

宝ホールディングス株式会社

常勤監査役

1972年 4月 当社入社

2001年 4月 海外部長

2003年 11月 日新酒類(株)取締役管理本部長

2007年 6月 当社常勤監査役(現職)

半田 邦博 (58歳)

宝ホールディングス株式会社

常勤監査役(社外監査役)

2005年 6月 農林中央金庫企画管理部長

2007年 6月 同金庫退職

協同リース(株)取締役

2008年 10月 JA三井リース(株)執行役員

2009年 6月 当社常勤監査役(現職)

友村 秀夫 (64歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役

1972年 4月 当社入社

2000年 6月 人事部長

2003年 4月 総務・人事グループジェネラルマネージャー

2004年 4月 総務人事部長

2005年 6月 日本合成アルコール(株)常務取締役

2008年 6月 当社監査役(現職)

6月 宝酒造(株)常勤監査役(現職)

香川 孝三 (68歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役(社外監査役)

2007年 4月 神戸大学名誉教授(現職)

大阪女学院大学 国際・英語学部教授

2008年 4月 大阪女学院大学副学長

6月 当社監査役(現職)

2012年 4月 大阪女学院大学大学院

21世紀国際共生研究科・科長(現職)

北井 久美子 (59歳)

宝ホールディングス株式会社

監査役(社外監査役)

2005年 8月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長

2007年 8月 中央労働災害防止協会専務理事

2011年 6月 当社監査役(現職)

事業概要

宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842(天保13)年までさかのぼります。以来170年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏付けられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。

焼酎

長年培ってきた独自の技術によって、時代が求める焼酎を追求し市場を創造し続けてきました。甲類焼酎では、発売100周年を迎えたNo.1ブランドの“宝焼酎”、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の“極上<宝焼酎>”、ロングセラーの“宝焼酎「純」”などのブランドでトップシェアを堅持しています。本格焼酎では、芋100%の“全量芋焼酎「一刻者」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣」”などのこだわり商品、日常の晩酌ニーズに応える「よかいち」など、オリジナリティーある商品を発売・育成しています。



清酒

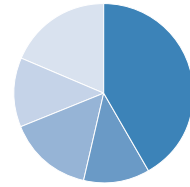
松竹梅は、「よろこびの清酒」として慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。2001年には、手造りの原理を再現した最新鋭の設備と人の手で行う酒造りの両方を併せ持つ松竹梅白壁蔵(神戸市東灘区)を完成させ、新感覚のスパークリング清酒“松竹梅白壁蔵「霽」”や“松竹梅「白壁蔵」<生きもと純米>”などの高品質酒を送り出しています。また、晩酌市場では“松竹梅「天」”に新容器パウチパックを発売し、お客様の多様なニーズに応えています。業務用市場では“松竹梅「豪快」”が多くのお客様からご支持をいただいています。



ソフトアルコール飲料

1984年に日本初の缶入りチューハイとして発売された“タカラ can チューハイ”、下町の大衆酒場で愛される辛口焼酎ハイボールの味わいを追求した“TaKaRa「焼酎ハイボール」”など、独自の味わいで多くのお客様からご支持をいただいています。他にも、

カテゴリー別売上構成比



■ 焼酎	41.9%
■ 清酒	11.9%
■ ソフトアルコール飲料	15.2%
■ 調味料	12.6%
■ その他	18.4%

「産地直搾り果汁」を使用し果汁のおいしさに徹底的にこだわった“タカラCANチューハイ「直搾り」”や、なめらかな口当たりとやさしい甘さが特徴の“タカラCANチューハイ「直搾り」くちどけ”など、様々な嗜好にお応えできるこだわりの商品を開発・育成しています。



調味料

本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、食塩無添加の料理清酒“タカラ料理のための清酒”など、「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な酒類調味料をご提案しています。また、加工業務用市場に向けては、お総菜や加工食品などに適した「京寶」ブランドやだし調味料などの商品を取りそろえるとともに、食品分析や調理効果研究、レシピ開発などお客様とともに様々な課題解決に取り組んでいます。



海外

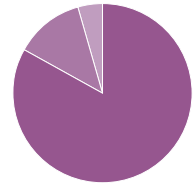
おいしくヘルシーな食事として日本食が注目を浴びグローバル化するのに伴って、清酒やみりんも普及しており、現在欧米やアジアを中心に世界40カ国以上の国々で清酒「松竹梅」、タカラみりんをはじめとする宝製品が親しまれています。2010年には、欧州における日本食材卸事業に参入し、日本の酒類と食材を組み合わせた提案を通じ、日本の食文化をさらに世界に広める取り組みを加速させています。



タカラバイオグループ

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、細胞・遺伝子治療など革新的な技術の開発を通じて、人々の健康に貢献することです。その実現を担うタカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第二の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

カテゴリー別売上構成比



■ 遺伝子工学研究事業	83.3%
■ 医食品バイオ事業	12.4%
■ 遺伝子医療事業	4.3%

遺伝子工学研究事業

大学の基礎研究から創薬研究などの産業分野まで、世界中のバイオテクノロジー研究を支援しています。研究用試薬・理化学機器では、遺伝子増幅に利用する高性能のPCR酵素やリアルタイムPCR装置など、市場のニーズにマッチした製品を開発し、提供しています。また、遺伝子工学分野に加え、市場の拡大が見込まれる細胞生物学分野にも注力して研究開発を行い、中国で製造したコスト競争力の高い製品群を全世界に販売するとともに、技術的に補完関係のある企業との提携を推進し、グローバルマーケットにおける地位のさらなる向上に努めています。研究受託サービスでは、高速シーケンス解析、iPS細胞作製受託サービスなどの技術サービスに加え、解析によって得られた膨大なデータから有用な情報を引き出す次世代データマイニングなどの高付加価値サービスを提供しています。



医食品バイオ事業

日本古来の食品素材の機能性をバイオテクノロジーで解析し、それらの素材を活かした健康食品の開発・製造を行っています。また、キノコの新品種育成や大規模栽培といった技術を活かし、キノコの生産販売などを展開しています。健康食品事業ではガメ昆布「フコイダン」、寒天由来「アガロオリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「テルペン」、ヤムイモ「ヤムスゲニン®」、ボタンボウフウ「イソサミジン」などの機能性成分を研究し、開発・製造した健

康食品は宝ヘルスケア社を通じて消費者の皆様にお届けするほか、食品・飲料などの原料として、機能性食品素材を食品メーカーなどに提供しています。キノコ事業では、JA全農長野などにブナシメジ菌株や大量生産技術のライセンスを行うほか、ハタケシメジやホンシメジの自社生産販売を行っています。



遺伝子医療事業

遺伝子工学研究事業で培ったテクノロジーを利用して、遺伝子医療に必須となる中核技術を開発し、その商業化を進めています。中核技術の一つは、血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能とする「レトロネクチン法」で、体外遺伝子治療における遺伝子導入法のスタンダードとなっています。二つ目の中核技術は、生体内での生存能力が高く、抗原認識能も高いナイーブT細胞を多く含む細胞集団が大量に得られる「レトロネクチン拡大培養法」で、遺伝子治療や細胞医療に用いられています。これらの技術を積極的に全世界にライセンスアウトし、技術の普及と収益の拡大を目指しています。また、自社プロジェクトとしても、がんやエイズの遺伝子治療・細胞医療の臨床開発を進めるほか、がん免疫細胞療法に関する支援事業として、医療機関に対する細胞加工技術支援サービスの提供や、細胞培養用培地・バッグの販売などを行っています。



宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を、お客様へ直接お届けするダイレクトマーケティングを通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。TaKaRaグループでは、タカラバイオグループで研究された機能性素材を活用した健康食品を、宝酒造グループのマーケティング・ノウハウを持つ宝ヘルスケアを通じて販売することで、シナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させています。

連結財務ハイライト

3月31日終了事業年度

期間項目	単位：百万円 ^(注1)					単位：千米ドル ^(注2)
	2012	2011	2010	2009	2008	2012
売上高	¥198,690	¥189,769	¥190,525	¥192,790	¥191,878	\$2,423,048
宝酒造グループ	175,503	166,790	166,969	169,301	166,788	2,140,280
タカラバイオグループ	19,578	18,737	19,325	18,913	20,278	238,756
宝ヘルスケア	2,338	2,567	2,486	2,853	3,078	28,512
その他(連結消去含む)	1,269	1,673	1,743	1,722	1,733	15,475
売上原価	121,462	115,480	115,805	118,849	117,864	1,481,243
売上総利益	77,228	74,289	74,719	73,941	74,014	941,804
販売費及び一般管理費	67,963	65,953	66,146	65,090	65,507	828,817
営業利益(損失)	9,264	8,335	8,572	8,851	8,506	112,975
宝酒造グループ	6,768	6,568	7,129	7,465	7,177	82,536
タカラバイオグループ	1,547	1,097	553	426	560	18,865
宝ヘルスケア	(114)	(252)	(316)	(356)	(500)	(1,390)
その他(連結消去含む)	1,063	921	1,206	1,315	1,268	12,963
税金等調整前当期純利益	8,590	7,505	8,208	8,193	8,321	104,756
当期純利益	3,995	3,788	4,677	5,639	4,658	48,719
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	5,209	5,384	5,652	5,992	6,384	63,524
資本的支出	5,330	3,735	3,645	3,616	3,852	65,000
研究開発費	3,027	3,076	3,665	3,343	3,643	36,914
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,013	9,462	10,452	8,954	9,816	109,914
投資活動によるキャッシュ・フロー	(4,779)	(11,323)	(7,350)	(7,769)	(411)	(58,280)
財務活動によるキャッシュ・フロー	(3,265)	(3,199)	(3,219)	(9,294)	3,414	(39,817)
フリー・キャッシュ・フロー ^(注3)	4,233	(1,861)	3,102	1,184	9,404	51,621
期末項目						
総資産	¥197,437	¥192,448	¥195,495	¥190,792	¥207,843	\$2,407,768
有利子負債	38,493	38,881	39,162	39,092	43,717	469,426
純資産	107,659	106,895	109,206	105,316	113,273	1,312,914
自己資本	94,783	94,308	96,666	93,093	99,969	1,155,890
1株当たり(単位：円)：						(単位：米ドル)
当期純利益	¥ 19.32	¥ 18.21	¥ 22.20	¥ 26.32	¥ 21.53	\$0.24
純資産	461.41	454.21	459.92	437.42	462.00	5.63
配当金	9.00	8.50	8.50	8.50	8.50	0.11
指標(単位：%)：						
総資産当期純利益率	2.0%	2.0%	2.4%	2.8%	2.2%	—
自己資本当期純利益率	4.2	4.0	4.9	5.8	4.6	—
自己資本比率	48.0	49.0	49.4	48.8	48.1	—
配当性向	46.6	46.7	38.3	32.3	39.5	—
株主還元性向 ^(注4)	51.7	58.6	60.6	79.0	—	—

(注) 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

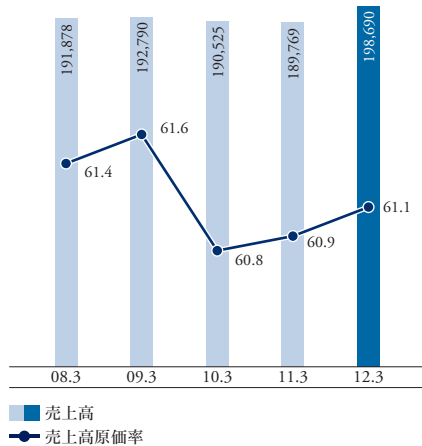
2. 米ドルは2012年3月31日現在のレートの近似値82円/ドルで便宜換算しております。

3. フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

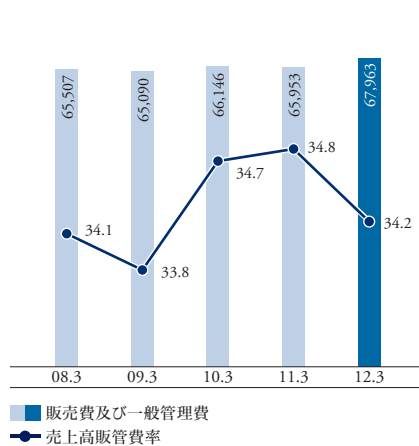
4. 株主還元性向＝「株主還元総額(配当総額＋自己株式取得総額)」÷「みなし連結当期純利益*」

*みなし連結当期純利益＝(連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息)×(1－法定実効税率)

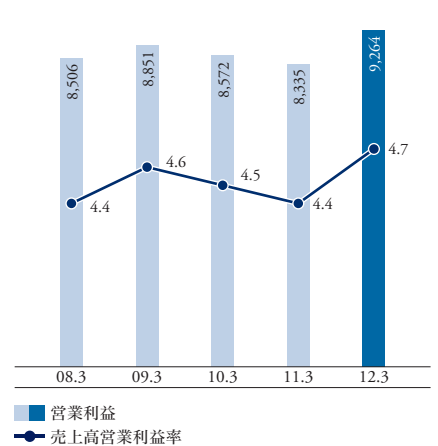
売上高・
売上高原価率
(百万円/%)



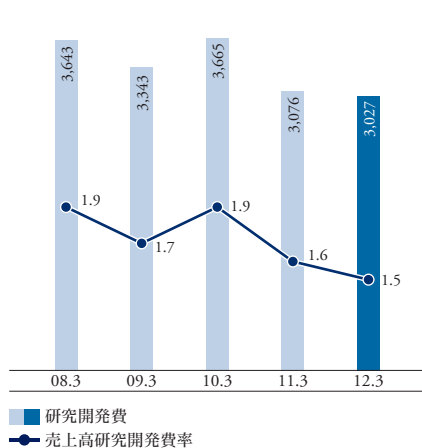
販売費及び一般管理費・
売上高販管費率
(百万円/%)



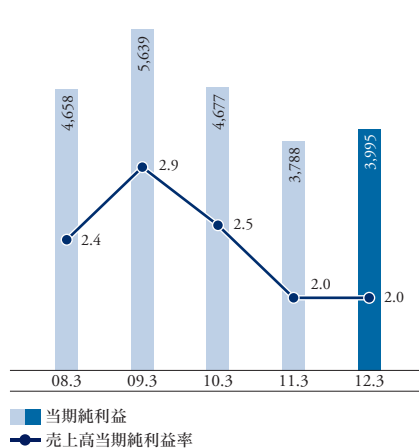
営業利益・
売上高営業利益率
(百万円/%)



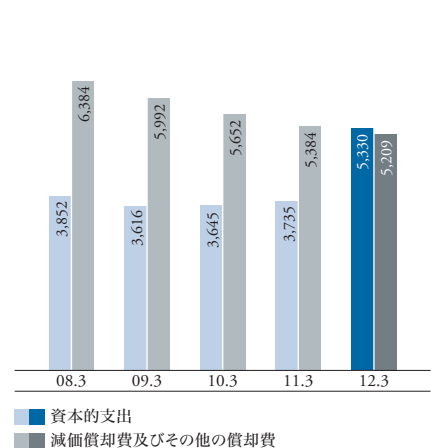
研究開発費・
売上高研究開発費率
(百万円/%)



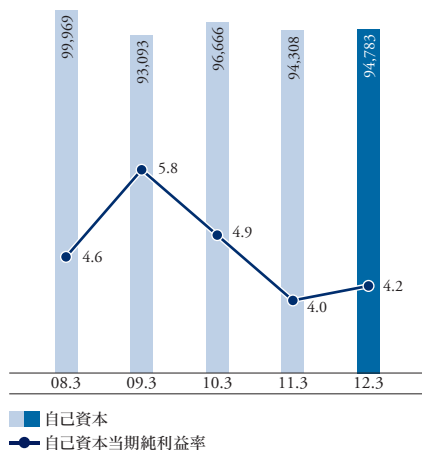
当期純利益・
売上高当期純利益率
(百万円/%)



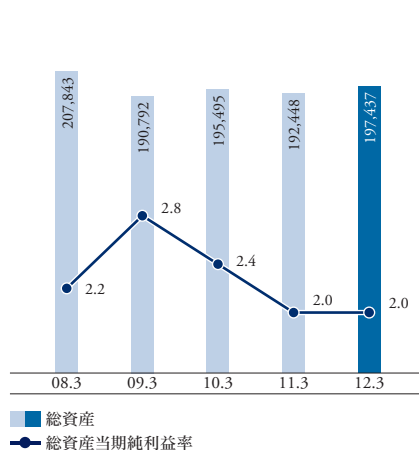
資本的支出・
減価償却費及びその他の償却費
(百万円)



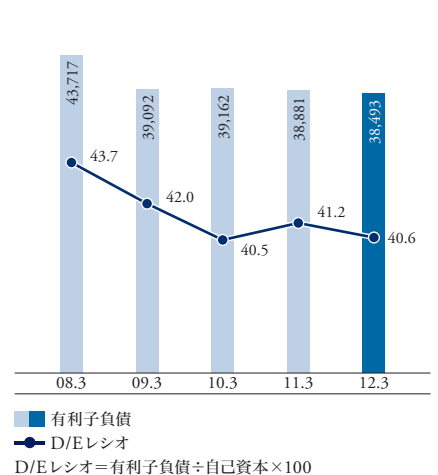
自己資本・
自己資本当期純利益率
(百万円/%)



総資産・
総資産当期純利益率
(百万円/%)



有利子負債・
D/Eレシオ
(百万円/%)



主要子会社データ

2012年3月31日現在

会社名	所在地	資本金	議決権の所有割合	主な事業内容
宝酒造株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110 【お客様相談室】TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売

宝酒造株式会社の連結子会社

タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13 TEL 0774-68-1720	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、損害保険代理業、旅行業等
タカラ長運株式会社	〒850-0075 長崎県長崎市西泊町22-38 TEL 095-894-8701	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
小牧醸造株式会社	〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12 TEL 0996-53-0001	16百万円	(50.0%)	焼酎の製造・販売
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	広告代理業、マーケティングに関する調査、販促企画、人材派遣事業、飲食店経営
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	7,000千ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国) (英文名: Takara Shuzo Foods Co., Ltd.)	506 Room, Huatengbeitang Commercial Tallbuilding No.37 Nanmofang Road, Chaoyang District, Beijing, China 100022 TEL 10-5190-0975	130,000千元	(62.0%)	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、宝酒造グループ製品の輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司 (中国) (英文名: Shanghai Takara Shuzo International Trading Co., Ltd.)	Room 105, Building 12, No.505, Zhong Shan Nan Road, Shanghai, China 200010 TEL 21-6152-6623	4,896千元	(100.0%)	宝酒造グループ製品の輸入販売、中国優良製品の輸出
FOODEX S.A.S. (仏国)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France TEL 1-4647-4439	250千ユーロ	(80.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
タカラバイオ株式会社	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号 TEL 077-543-7212	9,069百万円	70.8%	研究用試薬、理化学機器の製造・販売、研究受託サービス、遺伝子治療・細胞医療の商業化、健康食品、キノコの製造・販売

タカラバイオ株式会社の連結子会社

瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38	10百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
有限会社タカラバイオファームセンター	〒899-7306 鹿児島県曽於郡大崎町永吉4217	3百万円	(48.3%)	明日葉などの農作物の生産・販売
株式会社きこのセンター金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006	5百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
宝生物工程(大連)有限公司(中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, China 116600	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St Germain en Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasam-dong, Gumchun-gu, Seoul, 153-803, Korea	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売
宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing, China 102206	1,030百万円	(100.0%)	研究用試薬・細胞培養用培地・バッグの販売
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・販売
DSS Takara Bio India Private Limited (インド)	A-5 Mohan Co-op Industrial Estate, Mathura Road, New Delhi, 110044, India	45百万ルピー	(51.0%)	研究用試薬の販売

宝ホールディングス株式会社の連結子会社

宝ヘルスケア株式会社	〒604-8166 京都府京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 TEL 075-229-6901	90百万円	100.0%	健康食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒600-8881 京都府京都市下京区西七条掛越町55 TEL 075-313-7141	90百万円	100.0%	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	情報システム開発・運用・管理
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

投資家情報

2012年3月31日現在

商号	宝ホールディングス株式会社	設立	1925年9月6日
事業内容	持株会社	資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入 長刀鉾町20番地	代表者	代表取締役社長 柿本 敏男 (2012年6月28日現在)
電話	075-241-5130	ホームページアドレス	http://www.takara.co.jp/

株主メモ

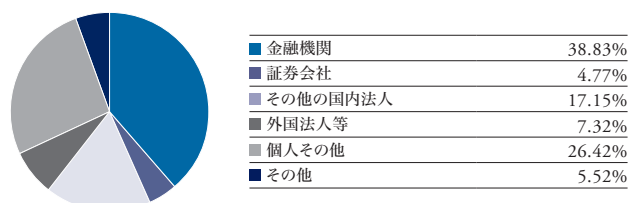
発行株式	
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	217,699,743株
株主数	28,781名
上場取引所	東証1部、大証1部
証券コード	2531
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)
株主総会	定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ

大株主 (上位10名)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	11,517	5.29
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	9,568	4.40
農林中央金庫	9,500	4.36
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.47
株式会社京都銀行	5,000	2.30
国分株式会社	3,489	1.60
宝グループ社員持株会	3,063	1.41
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.38
JPモルガン証券株式会社	2,855	1.31

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
2. 上記のほか、当社は自己株式を12,008,889株 (所有株式数の割合は5.52%) 保有しております。

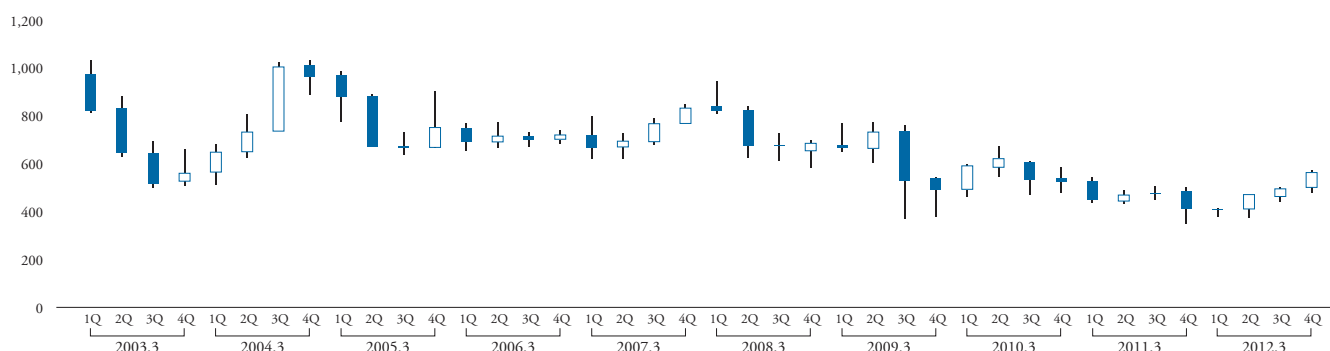
所有者別株式分布状況



格付

格付機関	長期格付	短期格付
格付投資情報センター (R&I)	A / 安定的	a-1
日本格付研究所 (JCR)	A / 安定的	J-1

株価の推移 (円)



宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
Phone: (075) 241-5130

www.takara.co.jp



この用紙費用の一部は『日本赤十字社』に寄付されております。
この印刷物は環境に配慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しております。
この印刷物は京都エコポイントモデル事業でカーボンオフセットされた電力を使用して印刷しております。